

東葛支部会報

第13号

千葉工業同窓会東葛支部

2006年11月1日



▲市川市立中央図書館

第8回 東葛支部定期総会開催

東葛支部第8回定期総会を、去る6月11日(日)13時より、市川市八幡神社内にあります「八幡会館」にて、開催されました。

当日は、あいにくの雨でしたが、県外会員の方も多数出席していただき、来賓の方を含め総勢56名の皆さんにお集まりいただきました。

議題は、「平成17年度会務報告」「平成17年度決算報告及び監査結果報告」「平成18年度会務計画(案)」「平成18年度予算(案)」「東葛支部役員の一部改選の件(案)」の5

議題でしたが、議事の結果いずれも賛成多数で承認されました。

続いて、安藤同窓会会長、宮越学校長、段木同窓会顧問の御祝辞を頂いた後、場所を八幡会館内の懇親会会場に移し、恒例の楽しい懇親会を行いました。

今回の13号より、表紙の写真を東葛地区各市町村の主な図書館を題材に飾ってみたいと思います。

■第1号議案 平成17年度 会務報告

年 月 日	実 施 内 容	実 施 場 所
17. 4. 3	千葉工業第20回同窓祭	母 校：食堂
10	外房支部定期総会	東 金：八鶴亭
14	本部主催：ハイキング同好会	佐 倉：佐倉市内ハイキング
19	本部主催：囲碁大会	西千葉：西千葉囲碁センター
23	千葉市西支部定期総会	千 葉：ポートプラザちば
30	支部幹事会	柏 ：高柳近隣センター
5. 2	男の料理塾	千 葉：福 酔
8	京葉支部定期総会	船 橋：玉川旅館
15	同窓会本部幹事会	母 校：会議室
18	千葉市3支部・外房支部主催ゴルフ大会	房総CC：大上コース
22	市原市支部定期総会	五 井：サンプラザ市原
29	北総支部定期総会	佐 倉：ホテル リッチタイム
6. 12	東葛支部定期総会	本八幡：八幡会館
26	千葉市東支部定期総会	新千葉：平成館
7. 3	千葉市中支部定期総会	千 葉：ポートプラザちば
10	千葉西支部主催麻雀大会	千 葉：麻雀太郎
11	評議委員会	母 校：会議室
17	県外地区幹事会	横 浜：東京ガス会館
25	東葛支部幹事会	柏 ：高柳近隣センター
8. 2	本部主催：囲碁大会	西千葉：西千葉囲碁センター
25	支部長連絡会議	新千葉：平成館
29	男の料理塾(焼肉)	千 葉：福 酔
9. 18	支部幹事会	流 山：若菜寿司
25	IT委員会初会合	母 校：会議室
10. 17	東葛支部幹事会	柏 ：高柳近隣センター
21	本部主催：囲碁大会	西千葉：西千葉囲碁センター
22	本部主催：麻雀大会	千 葉：麻雀太郎
25	本部主催：第4回親善ゴルフ大会	房総CC：大上ゴルフ場
11. 21	東葛支部ハイキング	亀山湖：三石山ハイキング
27	本部常任幹事会	母 校：会議室
12. 4	本部主催：ハイキング同好会	和田浦：烏場山ハイキング
8	東葛支部幹事会兼忘年会	湯 島：北 上
18. 1. 20	本部主催：囲碁大会	西千葉：西千葉囲碁センター
2. 27	男の料理塾(あんこう鍋)	千 葉：福 酔
3. 12	南総支部定期総会	木更津：木更津市民会館
3. 12	東葛支部幹事会	柏 ：高 柳《かつ美》
20	インターシップ報告会	母 校：講 堂
※10. 30	ハゼ釣り&バーベキュー(降雨中止)	市 川：江戸川河川敷

■ 第2号議案 平成17年度 決算報告

● 収入の部

費 目	平成17年度予算(A)	平成17年度決算(B)	差 額 (B)-(A)	内 訳
前年度繰越金	151,746	151,746	0	
年 会 費	231,000	174,000	▲57,000	58名×3,000 (77名予定→58名)
本部助成金	124,000	112,000	▲12,000	渉外助成金 80,000 活動助成金 32,000
寄 付 金	5,000	4,100	▲900	芝田様 2,000 幹事会釣銭 2,100
総会費(懇親会)	290,000	280,000	▲10,000	本部・各支部(30名) 東葛支部(24名)
雑 収 入	254	0	254	
合 計	802,000	721,846	▲80,154	

● 支出の部

費 目	平成17年度予算(A)	平成17年度決算(B)	差 額 (B)-(A)	内 訳
総 会 費 (含懇親会費)	290,000	289,991	▲9	飲食代 252,124 資料・記念写真 37,867
会報発行費	130,000	122,125	▲7,875	11号・12号 支部会報印刷代
会 議 費	20,000	12,720	▲7,280	幹事会(4回)、飲料 会場使用料
事務通信費	50,000	29,431	▲20,569	会報送付代、振込料 事務用品、ハガキ
渉 外 費	120,000	97,000	▲23,000	他支部定期総会出席、 他
行 事 費	30,000	8,350	▲21,650	パーベキュー用材料 支部ハイキング補助
雑 費	10,000	2,000	▲8,000	
10周年記念準備金	100,000	100,000	0	現金にてプール
予 備 費	52,000	0	▲52,000	
合 計	802,000	661,617	▲140,383	

(収入) (支出) (残金)
《決算》 721,846 - 661,617 = 60,229 (平成18年度に繰越)

— 会計監査報告 —

平成17年度の会計処理について、各帳簿と証拠書類とを照合監査の結果、いずれも適正に処理されており、決算報告書の通り相違ないことを認めます。

平成18年5月11日

会計監査 竹内 昭夫 (印)

会計監査 伊橋 潤一 (印)

■ 第3号議案 平成18年度 会務計画(案)

1. 平成18年度 第8回定期総会	(1) 開催日時 平成18年6月11日(日) 13:00~ (2) 開催場所 八幡会館 市川市八幡4-2-1
2. 常任幹事会の開催	●年2回以上開催
3. 幹事会の開催	●年4回以上開催
4. 会報の発行	●年2回発行 第13号 平成18年10月 第14号 平成19年3月
5. 会員名簿の発行	●平成18年7月に配付 イ. 県外会員を含めた名簿の発行
6. 地区懇談会の実施	●地区ごと又は一部合同して地区懇談会を開催し、会員相互の親睦と人間関係が図れるよう企画する
7. 渉外活動の展開	●会員の増加と組織の充実を図ると共に、本部への協力、他支部との協力を図る ① 県外会員への加入活動を図り会員増と組織の充実 ② 同窓祭(第21回)への参加 ③ 他支部定期総会への参加 ④ 「本部レクリエーション委員会」開催行事への積極的参加
8. 会務行事の企画	●支部の行事並びに研修会、レクリエーション等を企画する ① 会員の親睦旅行、研修会を企画し会員相互の親睦を深める ② レクリエーション(ハイキング・バーベキュー・ゴルフ、トレッキング等)を企画し、会員相互の体力の維持向上に努める ③ 本部(レクリエーション委員会)、各支部との連携を深め、同好会への積極的な参加を促進すると共に育成に協力する

■ 第4号議案 平成18年度予算(案)

(案) 計の振込員等 案番号不明

● 収入の部

費 用	金 額	内 訳
前年度繰越金	60,229	
年 会 費	195,000	65名(予定)×¥3,000
本部助成金	108,000	渉外助成金 ¥80,000 活動助成金 ¥18,000 一律 ¥10,000
寄 付 金	3,000	
総 会 費 (懇親会)	270,000	本部・各支部(30名)東葛支 部(24名)計54名出席予定
雑 収 入	771	
合 計	637,000	

● 支出の部

費 用	金 額	内 訳
総 会 費	290,000	懇親会費、資料作成、写真代
会 報 発 行 費	130,000	会報12号、13号印刷代
名 簿 発 行 費	5,000	発行予定18年7月
会 議 費	15,000	幹事会会場使用料他
事 務 通 信 費	30,000	会報送付代、事務用品、切手他
渉 外 費	120,000	他支部定期総会出席他
行 事 費	20,000	ハゼ釣り&バーベキュー大会 (ガス台・ガスボンベ代等)
雑 費	5,000	支部ハイキング補助他
準 備 金	0	10周年記念準備金
予 備 費	22,000	
合 計	637,000	

■ 第5号議案 役員改選の件(案)

顧問	永 峯 清 秀 (旧職) 《留任》
相談役	・田 口 昭 (25E) 《新任》
1. 支部長	立 崎 作 次 (26C) 《留任》
2. ①副支部長	高 橋 健 一 (29C) 《留任》
②副支部長 (経理部長)	吉 田 勝 彦 (32E) 《留任》
③副支部長	・中 村 軍 治 (32M) 《新任》
④副支部長	坂 卷 実 (34M) 《留任》
⑤副支部長	高 木 昇 (36E) 《留任》
3. ①事務局長	木 間 英 一 (33C) 《留任》
4. 地区相談役 (東京・神奈川)	豊 田 治 司 (20C) 《留任》
①地区長 (市川・浦安)	芝 田 康 雄 (28E) 《留任》
②地区長 (東京・神奈川)	鶴 岡 和 敏 (27E) 《留任》
副地区長 (東京・神奈川)	左 氏 靖 雄 (29C) 《留任》
5. ①常任幹事	志 賀 薫 (32M) 《留任》
②常任幹事	鎌 形 武 久 (33C) 《留任》
③常任幹事	石 井 健 治 (36M) 《留任》
④常任幹事	滝 口 貞 一 (40E) 《留任》
⑤常任幹事	富 田 博 (44M) 《留任》
6. ①幹事	前 原 睦 雄 (19E) 《留任》
②幹事	渡 辺 秀 男 (33C) 《留任》
③幹事	桜 井 一 三 (33M) 《留任》
④幹事	・斉 藤 進 (34M) 《新任》
⑤幹事	・恩 田 勝 (38C) 《新任》
①地区幹事 (東京・神奈川)	土 屋 孝 夫 (34M) 《留任》
②地区幹事 (東京・神奈川)	吉 田 典 昭 (34M) 《留任》
7. ①会計監査	竹 内 昭 夫 (20C) 《留任》
②会計監査	伊 橋 潤 一 (27E) 《留任》
(注：氏名前の・印は前大会後幹事会に図り選任した役員である)	
8. 退任者	ナ シ

最近の支部活動に思う



東葛支部 支部長
26C 立崎 作次

東葛支部は、創立以来、早くも丸7年になろうとしています。

これも、本部、支部等各級役員及び当支部会員並びに役員の皆様方のご支援、ご

協力の賜であり、紙上をお借し厚く、御礼申しあげます。

さて、7年を過ぎ、各支部の現状を見渡しますと、それぞれ、組織上の問題も顕在化して来ているように感じられます。

一部の例外支部もあるかもしれませんが、概ね、各支部とも、会員増の伸び悩みであると思います。特に、若い会員の入会が低調のようであります。それは、生実の卒業生の会員化が極めて寂しいからです。

その打開策は、何か？ 妙案はあるか？ 中々、難しい問題であり、同窓会活動の原点に思いを寄せ、改めて、熟読しました。

この簡素な表現「地域会員相互の親睦と情報の交流を図り会員各位と母校の発展に寄与する」となっています。この簡素な言葉を再認識して、具体策はどう進めるか、難解で、次の様な対応策しか浮かびませんが、本部主導のもと(支部フォロー)取り組まねばならないと考えます。

1. 会員増対策

- (1) 団塊世代(40年卒～45年卒)現役リタイヤ組へのアタック
- (2) 「同期会促進委員会」の設置(生実の卒業生をメイン)

三石山晩秋

20C 竹内 昭夫

紅葉が見頃とおもっていたのに少しばかり早かったらうか。

11月22日。立崎支部長以下、特別参加の妙齢女性5人を含む総勢13人が、木更津から1時間、JR久留里線は長閑な里山風景を車窓に展開させて心を癒やす。終点、上総亀山駅10時半、体勢を整えこれからいよいよ三石山観音寺をめざす。

三石山は標高282m、日頃0m地帯に住みついて

(3) 他県在住卒業生へのアタック

2. 母校発展への寄与策

(1) 学校環境整備の補助

(2) 母校近在の中学校及び小学校への、PRの補助

以上の様な策が、当面考えられる様に思います。勿論、まだまだ、多くの策はあろうかと思いますが、背伸びの論議になっても仕方ありません。本部主催の支部連絡委員会の活動計画もあろうかと思いますが、種々論議を積み重ね、より良い方向に導いて欲しいと念願しています。

安藤会長が、本部会報、第16号の紙面に於いて、「同窓会は、我々にとって人生劇場であり、いろいろな人生を見事に生きた方々が、それぞれの世界に、それぞれの舞台を数多く持っている、同窓会も、又、その舞台の一つである。一人でも多くの方々が、此の同窓会劇場で、時には、自ら出演、時には、自ら役者となり、時には、観客の一人となって全体が、一体化したような世界を作り上げたい、と願っている」と述べています。

安藤会長の柔軟な呼びかけは、会長からの滲み出るような、素晴らしい記述でありました。最近、個人情報保護法など、かなり法的に難しい面が生じる場合も、想定されなくは有りませんが、同じ学校を卒業した仲間意識のもと、同窓会活動の原点に立脚し、その諸活動に励もうではありませんか！

東葛支部エリア、7市在住並びに近県在住の卒業生のみなさん、千葉工業高校劇場で、有意義な、残り人生を楽しく、愉快に過ごしましょう。

横着をしている人間にとっては、かなりの高所へ登る事になるのだ、決して侮れない。駅前にはコンビニ風の酒屋もあって、その方の向きには事欠かない、この土地には造り酒屋もあるという。

亀山湖を広い藤林大橋で渡る、左手高台に如何も豪華な建物が見える、聞けばホテル、亀山城とこの辺りの古びた雰囲気から察して一体どれほどの、又どんな客筋の利用があるのだろうかといふかる。

さて、紅葉こそまいちながら道々は、いま柿の収穫期を迎えていた。数人の共同作業で柿の大木の下、軽トラは段ボール満載だ。道は上るにつれて爪先上りとなる。登山道入口標柱から20分ほどの所、左手にトンネル通つて上る裏参道入口があった、この道は途中から急勾配の石段となり、かなりの趣きありと聞いていたのに『土砂崩壊のため通行止』言い訳が出来たのでそのまま、広い車道を進む、そこからひと汗、ふた汗、かいた所で漸く道は平らになる。

真言宗智山派三石山観音寺は三石山の尾根筋を切り開いた東西に細い境内域に、手前から鐘楼、水舎、札所、そして最奥に本堂を配する、本尊は十一面観音で、海運と縁結びに霊験ありといわれている。



三石の名は本堂に覆いかぶさるようにして、しかも天に屹立する三つの巨石に由来するといわれる。本堂裏手から、その巨石の割れ目を、身を細め、這う様にして潜り抜けた、その上に更に足許の、おぼつかない岩の一角に頂上がある。鎮座する奥之院の前には、フェンス状の櫓があり、そこには無数の、そして色とりどりのハンケチが結び付けられている、縁結びの御利益にあやかりたい善男善女は、素朴な祈りとともにトレイルを、ここに残す。

頂上は南に全開し、重畳する山並みを望見すれば、改めて房総の山々の奥深さを実感する、後続の人のため長居は出来ない。

定年退職後求めていたもの

◎ 八年前のきっかけ

『今日はどこへ行くの』『手賀沼探鳥会よ』『一緒に行く?』『行ってみようかな』自宅から近い事もあり、この道の先輩である妻と同行し、双眼鏡を片手に名前も解らない、カモ類、サギ類とともに、コバルトブルー

昼食は参道わきの小広い駐車場の一角、それぞれの時間、思い思いの時間、団欒の時間すごした。帰りの、14時発(木更津行き)の時間に間に合わせるには、そろそろ出発。

わたしは、Iさんとともに一番最後になってしまった、部落へ下がったところ、最後尾のIさんに声後のをかける人がいた、槇の手入れをしながら、この家の御当主らしい人が『高橋尚子を見て来ましたか』と、そう、観音寺境内の一角に手形を彫った石碑が立っていた、そこには『小出義雄』と並んで『尚子』の手形もあった、そのことだ。この土地にも不死鳥、尚子の復活に安堵した人もいるという事だ、お寺側は又別の意味でよかったと思うに違いない。

Iさんはそれよりも、我々の一団は千葉工業の同窓会の面々で——云々と見当違いの返事をしながらカメラをまわしていた。

午後も、2時近いと言うだけで何となく気ぜわしくなる、長い下りだ。下から背負籠姿のお年寄りが、ゆっくり上ってくる、たわわに実をつけている柿の大木が午後の柔らかい陽差しを受けて、時間が一瞬止まった様だ。Iさんが、目隠くハンデイクムを構える、おばあさんに『写真を撮らせてもらいましたよ』と話しかける。その、お婆さんが『小櫃から嫁にきた頃は、上がるも下がるも坂ばかりで泣いた事もあった、友達みんな木更津だの馬来田だのと下へ下へといったのに、私はここで我慢して、もう60年にもなつてしまった』と話しをしてくれた。しかし、陽やけした、その顔にはこの土地への愛着が滲む。『ありがとうございました、お互いに達者でがんばりましょう』どちらからともない別れ際の挨拶。もう先の約束は叶う事はないであろう老いたもの同士、ちよつぱり寂しい挨拶だ。

思わぬ道草に、気が付けば本隊はもう姿が見えない、急ぎ足で追いかける、駅前を見通す所では小走りだ。上総亀山発、発車4分前、始発の車内で、みんな待っていてくれた。(完)

32E 吉田 勝彦

に輝くカワセミの魅力と、手賀沼の自然環境の素晴らしさに魅せられ、バードウォッチングに、興味を持ってから、早、八年が経過した。以下思いつくままに野鳥との立会を記す。

◎ バードウォッチングの思い出さまざま

宮城県の伊豆沼での早朝、夜明けと共に、何の躊躇も見せず、一斉に飛翔する数万羽のガン、カナダバンクーバーの空を、まっ白に染めた、ハクガン。厳冬の北海道では、雪景色の中優雅に舞うタンチョウ、流水の上のオオジロワシ、オオワシのあまりの大きさに驚いた、谷津干潟での数種のシギ・チドリの数と、セイタカシギ、ダイシャクシギの足とくちばしの素晴らしさ、富士山五合目のルリビタキ、キクイタダキの可愛らしさ。軽井沢、戸隠での、オオルリ、キビタキ、ミソサザイ、ヤマドリ等々、何とも言えない羽色の美しさと、さえずりの、楽器では表現出来ない音色。石垣島、西表島での、ヤツガシラ、サギなども、もう一度観たい野鳥のひとつである。江戸川べりの農家の裏手樹木に数羽で、ジッとたたずんでいたトラフズク。印旛沼探鳥会での、アオバズクの可愛い目。舳倉島でのコウライウグイス、濃黄色の姿に黒の尾羽が、目に焼き付いている、長野県佐久の小川で、獲物の魚を倒木に叩きつけていた、ヤマセミの姿も印象深い、あの時は一時間近く観察していた様に記憶している。奥日光での、ジュウイチのはっきりさえずった声も、耳に残っている。

◎ 我孫子のコウノトリもみた

最近では、明治以来の記録という、コウノトリが一羽我孫子の水田に飛来、との報を受け、現場へ行った時、想像以上の大きさもさることながら、たった一羽で、

その目には何か寂しさが漂っていた様にみられ、我々人間だけでなく、野鳥でも一羽で生きてゆくのが、辛いのだろうと感じた、家族、友達の大切さを、改めて認識した。

◎ 千葉県内の定例探鳥会に参加して

県内の探鳥会にも、年十数回程度、参加する様になり、毎回の様に新発見があり、年々バードウォッチングへの興味も増加してはいます……が、経験年数の割には、いまだに鳴き声だけで、鳥の名前を……と言われるれば???が大部分なのです。何故だろう。答えは簡単。私は野鳥よりも、人間が好きだったんです。

◎ 定年退職後に求めていたもののひとつに出会ったのが探鳥会

どの探鳥会でも、年齢、性、生活習慣、人生経験等々、異なった仲間との出会い、上下関係、利害関係の無い立場で、美しい自然環境の中で、笑い、語り合う事の素晴らしさ、話題も増え、日常生活に於いても、益々円満なのです。

定年退職後、私が求めていたもののひとつに、出会ったのが、バードウォッチングだったので。美しい自然と、可愛い野鳥とのふれ合い、暖かい人と人とのふれあいを、豊かな暮しの為に大切にしたい。

千葉工同窓会の皆様、千葉県は野鳥の宝庫です。興味のある方、御連絡ください。

スポーツ写真撮影

昭和34年 機械科卒 宗像 敬司

1. はじめに

人生は早いものであつたという間に過ぎ去り、2000年7月に60歳定年退職になった。

振り返ると50歳の時、会社主催の『定年後の生活設計セミナー』を受講する。この講座で『定年後は毎日が日曜日で、健康維持と趣味を持つ』重要さを学んだ。そこで、継続して出来る趣味は何が一番良いか定年退職までにいろいろ試行した。その結果、幾つもの楽しみを同時に味わえるスポーツ写真撮影に到達した。

高校時代の修学旅行で関西を訪れたことや青春時代に和辻哲郎著『古寺巡礼』を読んだのを契機に、京都や奈良の古刹・庭園巡りや関西に多く点在する飛鳥・奈良時代の遺跡巡りに魅せられた。

1968年に勤務地が横浜市から京都市に移り、その後、尼崎市(兵庫県)、橿原市(奈良県)、大阪市と住まいを変わり、大阪市在住が30年を超えた。気が付くと関西生活が人生の半分以上を越える。

2. アメリカンフットボールとの係わり

アメリカンフットボールとのきっかけは約20年前に仕事仲間がクラブチームの選手をしていたので応援と写真撮影に行った。また、会社で仕事をお願いしていた弁理士さんが関係しているチームの後援会に入会して観戦するようになった。

息子が大学に入学してアメリカンフットボール部に入部した。毎試合応援と写真撮影に行っていたので、写真が上手で熱心な父兄と思われた。

部ではグラウンドでの撮影許可を試合毎に関西学生連盟から得る手続きを省くため、私をチームカメラマンとして連盟に登録しチームの一員に迎えてくれた。

3. チームカメラマンとしての活動

95年に阪神・淡路大震災が起り、チームの学生達は部活動の一環としてすばやく救援活動に参加した。私は若い人達の行動力に感動し、人生の先輩として彼らに青春の記念になるものを渡せないかと考えた。

秋季シーズンが終わると部の納会を行う。私が撮影した写真(4年生選手を中心とした構図の写真)を拡大し、納会席上で監督がコメントを添えて4年生一人ひとりに贈呈している。

04年、05年はバッシュティ・ボウル(関東大学連盟と関西大学連盟のオールスター戦)でカメラマンをする。

4. チームカメラマンの楽しみ

チームカメラマンを永くしていると、連盟役員や他の大学チームの監督・コーチや審判と知合いになる。その縁で他大学チームや社会人チームの試合も撮影するようになり、徐々に人の輪が広がっている。



(05年東西学生交流戦から)

撮影した写真はチームの厚意により、チームのホームページ(<http://www.gohercules.net/>)に写真を掲載している。また、ホームページにギャラリーを作成して掲載済みの写真をまとめている。

多くの試合を写真撮影していると発表出来るレベ

ルの写真が年に数枚出来る。その写真をもとに毎年テーマを決めて作品を発表している。

5. おわりに

02年5月にマリノボウルが横浜スタジアムで行われ、チームは大阪から遠征して初出場した。試合前日に昭和34年機械科卒の同級生達と久しぶりに会った。同級生仲間でメール・リンクを作り現況を報告し親交を深めているので、私も仲間に入れてもらった。こうして多くの同級生仲間との交流が再開した。同級生達は高校時代からいろいろな特技の持ち主が多く、メールの話題が豊富で多岐にわたり勉強になる。

京浜葉地区の同級生達は頻繁に会合を行って親交を暖めている。私は03年横浜市と04年浜松市で開催の会合に参加した。卒業後初めて会う仲間が多かったが、顔を合すと一瞬にして気分は高校時代に戻り楽しい時間が過ぎた。

多くの同級生が同窓会本部や支部の役員で活躍している。母校や同窓会や支部会合の現況をメールで知らせてもらえると同時にいろいろな会合を企画してもらえるのはありがたいこと

です。クラス仲間の結束は固く、良いものだといつも感じる。

定年後は上京の機会が少なく、本部及び支部の行事や同窓会の集まりになかなか参加が出来なくて申し訳ないと思っています。

東葛、雑学、遊学散歩(1)

34M 坂巻 実

志賀直哉、康子夫妻は大正4年、柳宗悦の誘いもあって我孫子に移り住みました。

其の翌年に武者小路実篤夫妻、そしてバーナードリーチなども我孫子にやってまいりました。

彼らは美しい手賀沼の自然環境から、創造活動のエネルギーを受けて数多くの優れた文学、芸術、文化活動の成果を後世に残しました。

丁度今年で90年になります。千葉工業高校が70周年ですから、その20年前になります。文化勲章作家阿川弘之氏は志賀直哉に25年間師事され、其の講演が我孫子市民会館でありましたので、かいつま

んで志賀直哉の人となり等を記事にしてみました。

志賀直哉は大正4年～14年まで我孫子に居をかまえ、暗夜行路の前編から後半の中頃まで執筆しました。

直哉は引越し癖があり、生涯に23回引越しました。

京都、鎌倉、群馬、奈良、熱海、松江、尾道等。

大正時代の我孫子の交通の便は、今とあまり変わらず、列車は一時間に一本ぐらいあり、東京へはそう不便でなく、手賀沼の風景は東洋的で、富士山が沼



面に映る景色は墨絵のようで好きだったようです。

又、迷信等は一切きしない性質だったようです。

普通の人を名を上げると東京へ出たがるが、直哉はそうせず、地方、地方へと転居した。

遺言でも「武士は死んでも名を残せ」と言われていたが、直哉は「名は残さなくても良い、作品を残せ」と「葬式もいらない」と言ったそうです。さすが葬式はやったが、49日、一周忌とかはやらず、「大欲は無欲に劣る」と言って、気難しく正直で、潔癖であった。

反面ユーモアに富み「あの人は年とったね、もう63(ろくさん)とか言って人を笑わせたようです。

最後に「雪の遠足」の随筆(日本三弁天の布施弁天への遠足の随筆)を紹介して終わりにします。

目的地の布施の弁天は其所だった。道から低い松並木の道へ下りた其所は人道りがなく、靴を埋める雪が会った。私達は、石段下の軒の低い休み茶

屋へ入った。土間は暗く、炉の火が赤かった。私は硝子蓋の平たい箱から勝手に駄菓子を出し、子犬にやった。然し子犬はそれへ見向きもしなかった。鼻へすりつけるようにしても頑固に顧みない。仕方がないので、今度は口を割って入れてやった。それでも食わず、口の横のほうに挟んだまじっとしていた。此方が悲しくなった。頑固も頑固だが、自分のやり方が如何に臆病な、そして気のひがんだ子犬にこたへたかを察すると気が沈んだ。子犬を縁台の足に縛り、暫く休んでから、私達は寺を見物に行った。

山門の下から見た本堂の厚い茅葺は立派なものだった。

注1 現在布施弁天の屋根は銅版葺きに改修中。

注2 犬の様子を自分の性質に置換えているようです。

注3 白樺文学館 <http://www.sirakaba.ne.jp>

● 皆様の趣味や得意とするものをご連絡下さい ●

会員の皆様は、色々な趣味をお持ちだと思いますが、比較的ポピュラーと思われるものについて、役員の中かで一応の担当者を決めてあります。会員の皆様のご趣味・得

意な分野・特技などを把握し、色々な行事や交流にお誘いしたいと考えています。趣味や得意な分野が一致した方は、それぞれの担当者までご連絡下さい。

- ゴルフ 櫻井 一三 〒279-0022 浦安市今川4-8-7 TEL.047-352-5569
- ハイキング 木間 英一 〒270-0002 松戸市平賀125-10 TEL.047-343-0455
- 囲碁・麻雀 高橋 健一 〒270-0157 流山市平和台5-400 TEL.04-7159-9367
- スーパー紙とんぼ 鎌形 武久 〒270-2241 松戸市松戸新田21-3 TEL.047-364-5084
- 茶道 富田 博 〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516 TEL.047-393-0850

今後の予定

● 当支部の予定

- 10月22日(日)
 - ◆ ハゼ&バーベキュー大会：江戸川河川敷
 - ◇ 東京メトロ東西線 妙典駅下車
- 11月7日(火)
 - ◆ ウオーキング：奥多摩「鳩の巣溪谷」
 - ◇ JR青梅線 古里駅～奥多摩駅
- 11月19日(日)
 - ◆ 常任幹事会：高柳近隣センター
 - ◇ 東武線 高柳駅
- 12月23日(土)
 - ◆ 幹事会・支部忘年会：かつみ
 - ◇ 東武線 高柳駅

● 本部の予定

- 10月17日(火)
 - ◆ 親善ゴルフ大会
 - ◇ 房総CC・大上コース
- 10月28日(土)
 - ◆ 麻雀大会：千葉「麻雀太郎」
 - ◇ JR千葉駅
- 11月25日(土)
 - ◆ 母校創立70周年記念式典
 - ◇ 母校体育館・グリーンタワー千葉
- 12月7日(木)
 - ◆ ハイキング：生籐山 ▲991m
 - ◇ 貸し切りバスにて



新入会員募集と入会手続きについて

東葛支部では、会員を増やしてどんどん組織を大きくしていきたいと思っています。このため、役員の中に「会員増促進委員会」を作って活動しています。

会員の皆様の仲間で、会員資格のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会を勧めて下さい。

- 1. 入会資格** 千葉工業学校、千葉工業高校、および同校併設中学校の卒業生、ならびにかつて同校に在勤、在学していた方で支部長が認めた方。
東葛地域に居住している方、または出身が同地域の方、同地域に勤務されている方。
- 2. 会費** 年会費 3,000円
- 3. 入会手続** 役員へ入会申込みされますと郵便振替用紙をお送りしますから、年会費3,000円を振込願います。

支部会報第14号の原稿募集

東葛支部会報第14号の原稿を募集します。

- 1. 発行予定** 平成19年3月
- 2. 原稿締切** 平成19年2月
- 3. 内 容** 母校の思い出・恩師の思い出・私の職場・私の仕事・私の趣味・私の特技・旅日記・近況・クラス会模様・エッセイ・呼びかけ・イベント報告 等、何でも結構です。
- 4. 投稿方法** 卒年科・ご氏名を記入の上、郵便・FAX(自動受信)・E-mailのいずれかでご投稿下さい。
- 5. 投稿先** 編集委員長 坂巻 実 〒277-0921 柏市大津が丘2-4-1
TEL:04-7191-5927 E-mail:minoru.sakamaki@jcom.home.ne.jp
編集委員 富田 博 〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516
TEL:047-393-0850 E-mail:atsuko19@io.ocn.ne.jp

東葛支部会報

第13号

発 行	平成18年11月1日
発 行 者	千葉工業同窓会 東葛支部
発行責任者	支 部 長 立 崎 作 次
事 務 局	事 務 局 長 木 間 英 一
編集責任者	編 集 委 員 長 坂 巻 実